

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	グループホーム あんずの家
訪問調査日	平成 22 年 3 月 5 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 #####

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	グループホーム あんずの家
所在地	鹿児島県いちき串木野市桜町39-1 (電話) 0996-32-8111

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年3月5日
評価確定日	平成22年4月7日

## 【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 18 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	16 人
非常勤	1 人
常勤換算	16.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000円(水道光熱費)	
敷金	有( ) 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有( ) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏林会 丸田病院 ・ 丸田歯科クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはJR串木野駅前の商店街を通り過ぎた住宅地にあり静かで便利な生活しやすい環境である。庭の中央に色とりどりの花が円形に寄せ植えしてあり近隣の人は立ち寄り会話の場所になっている。管理者・職員は利用者一人ひとりが生活してきた地域での暮らしの関係を大切に(知人と会う、月命日の自宅帰り、墓参り、馴染みの美容院行きなど)した支援の取り組みをしている。ホーム内では本人の持っている能力を活かし張り合いのある暮らしが出来るよう支援している。法人は当ホームや他のグループ事業所と合同で毎年公開講座を行っており、地域医療、地域介護の支援者として貢献している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回での改善課題は重度化や終末期に向けた取り組みについて、指針と同意書の作成が求められていたが、検討中で作成するまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員全員に呼びかけをし、昨年の自己評価を見ながら各自の考えを書き込みしてもらい、2ユニット分まとめている。職員は今後に向けてサービスの向上に取り組む意見を出している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は過去1年間に5回開催している。ホームの入居状況、クリスマス会・敬老会行事、地域向けの広報誌の発行、避難訓練、外部評価、法人の公開講座などホームの取り組みを報告しながらメンバーから行事に参加してもらったりアドバイスや意見をもらい地域交流やサービスの向上に反映させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月家族の訪問時に生活の様子や健康状況を報告している。遠方の3家族には毎月メールや電話で報告している。家族からの意見は面会時の他運営推進会議、家族会、苦情窓口など意見を出せる機会を設けている。家族からの意見や要望は職員で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、公民館活動に参加している。法人杏林会広報誌のほか、本年は新しい取り組みとして、あんずの家便りを発行し桜町79戸に配布しホームの広報活動をしている。地域は高齢者が多くなり家族の相談に応じている。近隣の人はホームの庭の花を囲んで話が始まる。小中学生の課外授業・職場体験の受け入れや串木野のさの祭り・マグロフェスティバルなど地域行事に参加している。一人ひとりの利用者の知人との交流を積極的に支援している。</p>

## 2.評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員は、利用者が地域の一員として生きてきた暮らしの生活をホームにおいても引き続き支援していくという事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の実現に向けて、一人ひとりの利用者が今までの地域での生活を継続し楽しく安心した生活になるように話し合い、本人が望む知人との出会い、馴染みの美容院行き、月命日の自宅帰り、墓参りなど実践に向けて支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、公民館活動に参加している。桜町に向けたあんずの家便りを発行し79戸の家に配布しホームの紹介をしている。地域は高齢者が多くなり家族の相談に応じている。近隣の人とはホームの庭の花を囲んで話をしている。小中学生の課外授業や職場体験の受け入れなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解し、今回の自己評価の取り組みには全員参加し、昨年の自己評価を見ながら各自の考えを書き込み、管理者がまとめている。サービスの向上に向けて今後取り組みたい具体的な改善を出している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は過去1年間に5回開催している。ホームの入居状況やクリスマス会、敬老会の行事、地域向けの広報誌の発行、避難訓練、外部評価、法人の公開講座などホームの取り組みを報告しながらメンバーから行事や避難訓練への参加をしても良かったり、広報紙の配布やアドバイス、意見などもらってサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホームあんずの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課の職員とは窓口のほか電話やメールで相談や助言を貰うなど連携を図っている。包括支援センターとは入居状況の情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は毎月の面会時に個別に報告することを重要視し、本人の様子、健康状況など細やかに伝達している。遠方の3家族には毎月メールや電話で報告している。金銭管理は来訪時に確認してもらっている。ホーム便りは年3～4回発行しホーム全体の報告や職員異動など報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、苦情窓口など聞く機会を設けているが、家族の訪問時に直接聞くことを重視し、話し易い環境の心がけをしている。職員の名前を分かりやすくして欲しい意見を受け止め職員で討議し職員紹介や自己紹介を積極的にするよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係を保つことを重視し、過去1年間の法人間の職員異動はしていない。職員の常勤雇用や無理のない勤務シフトで離職を抑える努力をしている。ユニット間の異動は年1回2名あるが、日頃の交流でダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修、法人研修の機会には、研修内容に対して適任者や希望者、順番、公平性など勘案しながら参加を勧め、出席者は職員会議で研修報告し、全職員が共有している。資格取得者にも目標達成に向けて支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区グループホーム協議会や市内のグループホームの会で活動をしているが管理者の交流にとどまっている。今後職員も交流できる機会を作る話し合いに向け検討されている状況である。	○	事業所の質の確保のためにも、同業者との交流は不可欠なものであり、管理者の交流だけでなく職員の勉強会や相互訪問の取り組みが実現することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には必ず利用者・家族に見学してもらい納得して貰うようにしている。利用開始になって雰囲気に馴染めない場合もあり、家族に距離を置いてもらう場合や家族に緊密に訪問して貰うなど家族と協力しながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護される立場の利用者に酢の物の調合や材料の切り方など聞いたり、針仕事の手伝い、口内炎の蜂蜜処方、落ち込み時の励ましをもらうなど共に過ごす中で支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者の希望や意向の把握に努め気づいたことは申し送りをしている。把握の困難な利用者についても声かけに努め家族との話し合いをするなど本人本位の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人・家族の希望や意向、職員の意見、必要であれば主治医の意見も取り入れ、本人のより良い暮らしが出来るように関係者の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しを行っている。毎月ケアカンファレンスを行い、対応出来ない変化が生じた場合は期間前であっても本人・家族・必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画の見直しをしている。		

鹿児島県 グループホームあんずの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じ通院、買い物、墓参りなど外出支援を行うほか、地域高齢者や家族の相談窓口になるなど事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医を継続している。毎週の往診や2週間毎の往診のかかりつけ医があるが、その他のかかりつけ医には定期的に受診支援している。眼科・皮膚科などの専門病院の受診、通院にも適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合本人・家族・かかりつけ医・職員と話し合い意思確認を行いながら方針を共有し対応している。重度化や終末期についての指針は作成してなく、対応についての意思確認についても文書の作成はしていない。	○	重度化や終末期に向けた対応指針を作成され、早い段階で家族の同意をもとめ方針の統一を図って頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は雇用時に利用者の秘密保持について契約をし理解している。管理者は地場の独特な言葉に対し常に利用者のプライバシーを損ねる言葉に値するものかを職員と検討しながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるが、利用者の起床、食事、入浴、睡眠時間など利用者の希望するペースに合わせ、その日の過ごしたい希望を問いかけながら買い物、散歩、レクリエーションなど支援している。		

鹿児島県 グループホームあんずの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は献立、買い物、調理、味付け、盛り付け、お茶入れ、片付け、テーブル拭きなど出来る事は職員と一緒にやっている。箸・茶碗・汁椀は自分の物を使用し、職員と三度の食事を一緒にするなど家庭的な食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて毎日入浴できる状態にしてあり、午後からは声かけをしながら希望に応じて入浴してもらい、入浴時間は職員とゆっくり向き合って話が出来るように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から得意なことを活かせるように、食事作り、ハーモニカ吹き、畑づくり、裁縫、新聞とり、梅干し作り、ゴミ箱作りなど一人ひとりの力を発揮できる場面づくりを工夫し張り合いや楽しみに繋げている。歌やおしゃべり、外食、ドライブなど喜びや気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材買い出しや個人的な買い物、近くの公園への散歩、敷地内の畑など日常出かけている。自宅帰り、知人宅への訪問、馴染みの美容院行きなど個々の希望にそった外出の他、季節を楽しむお祭り・花見など外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかける弊害を理解しており、日中は玄関に鍵をかけないケアの取り組みをしている。現在帰宅願望の人はいなく安定しているが、職員は常に居場所の確認に目配りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(夜間想定での訓練)火災訓練をしている。ガスの不使用、自動通報装置(5名の近隣協力者に通報できる)の対策がしてある。運営推進会議のメンバーに火災訓練に参加してもらい防災について一緒に考え、地域防災のネットワークづくりの案が持ち上がっている。		

鹿児島県 グループホームあんずの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はその日の朝に決めている。献立の記録を法人の栄養士に見て貰いアドバイスももらっている。摂取量の記録や体重測定で大まかな変化は観察している。医師の指示でカロリー制限や水分制限などのある人については栄養士に相談しながら特別な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには庭で摘んだ花が生けられ、職員と利用者がお雑用のパッチワークが飾られ季節感が採り入れられている。高さの違う3つのテーブルや低い流し台など利用者の身体に合わせてあり使いやすい。リビングの天窓の明かりや電球を和紙で覆うなど落ち着ける明かりの工夫がなされ居心地良く過ごせるリビングになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の部屋で備え付けの押入れとベッドが備わっている。押入れの戸がうまく使えない人には戸を外し、直接衣装ケースから衣類やタオルが取り出せるようにしている。ベッドからテレビが見えるように備え付け過ぎ易い部屋にしている。タンスや位牌、写真などを持ち込みそれぞれが落ち着く部屋づくりをしている。		